

令和5年度 学校だより 1月号



本宿 (ははそは)

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/honjuku>

令和6年1月12日
横浜市立本宿中学校
TEL 045-373-0529
校長 熊野 一隆

日々の生活の中に感謝の念を！

校長 熊野 一隆

元旦に起きた能登半島地震で、余りにも大きな揺れが発生したことに大きな驚きを感じました。また、現地で被災された方々に対し、ご心配をされた方も多くいらっしゃると思います。本宿中学校を代表し、心よりお見舞い申し上げます。

年末年始には、冬らしい寒さを感じる日が続き、凍えるような朝を迎え、登校時の生徒も寒風と闘いながら、しかし満面の笑みで元気よく登校してくる姿が印象的です。

今年の12月に行った終業式で、多くの生徒を対象に表彰を行いました。運動部では、ソフトテニス部の地区予選個人戦入賞、陸上競技部の市・県総合体育大会 棒高跳び入賞、バドミントン部の男子の部区大会準優勝などの活躍とともに、文化部や文化的行事では、吹奏楽部の市アンサンブルコンテストの銀賞、また、保健関係で「令和5年度 よい歯の生徒表彰」など盛り沢山でした。終業式では、新体制になる生徒会本部役員の認証式もありました。新役員全員が緊張しながらも、新しい挑戦への決意漲(みなぎ)る姿がそこにはありました。2年生を中心に先輩方の良き伝統を引き継ぎ、新たな本宿中学校の生徒会の歴史を築いていってほしいと願っています。

今年の春ごろの話になりますが、テレビで「THE SECOND」という番組を見ました。その番組で準優勝したマシンガンズの滝沢修一さんは、お笑い芸人と清掃作業員の仕事をかけ持ちする二足の草鞋(わらじ)を履いています。その滝沢さんに少し興味を持ち、彼の著書の『このゴミは収集できません』を(白夜書房)を読んでみました。いろいろと感ずるところがあったのですが、こういう件(くだり)があります。清掃作業中に「いつもありがとうね」「頑張ってる」と声をかけてくれる人がいるという。「その人たちの言葉が我々、清掃員たちにとって、どれだけ励みになるか」「皆さんが思っている以上に僕達には嬉しい」とありました。サービスを受けるものから些細な一言だが、受けてからは仕事の支えになるような一言。そういう気遣いが社会の各所にあって、私たちの生活の中に潤滑油が流れ、日々の生活の支えになっていることがあるのだなと感じました。

私は行事の挨拶の中でよく生徒の皆さんに「この行事を成功させるために陰で皆さんのことを支え応援してくれている人がいます。例えば家の方や先生方、また地域で皆さんを見守ってくださっている方々です。その方々に感謝できる心を持ち、素直に『ありがとうございます。頑張ります。』と言葉にできる本宿中の生徒であってほしい」と話してきました。日々の学校生活の中で常に感謝の念を忘れず、その恩を自分の姿勢や行動で返していく勇気ある生徒であってほしいと願っています。そのために向上心や求道心を保ち、級友と高みを目指すことができる教育環境を整えていきたいと考えています。

月刊部活道



【今月はお休みします】冬休み中をふくめ2月号で紹介させていただきます

【学年主任年頭あいさつ】

今年最初の学校日より、3人の学年主任の先生からのメッセージでスタートします。各学年のまとめ役となる先生が、それぞれの学年の現状やこれからのに向けての想いを綴りましたので、ご覧ください。

一日一日を大切に

1学年主任 西川 英子

あけましておめでとうございます。

まばゆいほど輝く元旦の初日の出を見た人もいますかと思えます。

2024年、日本中が久しぶりに迎えた平和な年明けでした。

そんな年始に衝撃的な天災が能登半島を襲い、日ごと明らかになる被害の状況に心を痛めています。被害に遭われた方々には心より哀悼の意を表します。

新学期を迎えた今日、元気に登校している生徒の皆さんの顔を見られることが本当に幸せであり、当たり前のような日常が実は有難いものと感じました。

今この時を大切に、日々の生活を大切にしていましょ。

今日できることは今日やりましょ。その積み重ねが大事です。

また、いつも近くにいる家族や友達に心に向け、感謝の気持ちをもって人と接する心をもってほしいと思います。

学級においても、人とのつながりを大切にし、より良い関係を築いて3学期を終えてほしいです。それは来年度、もっと良い学年を築く土台となります。

一日一日を大切に、自分自身を高める年にしましょ。



人に寄り添える一年に…

2学年主任 高橋 浩二

新年あけましておめでとうございます。

今年は特に行くところもなくのんびりと過ごしました。お正月番組にも飽きて子どもと一緒に、諜報員の父(黄昏)と秘密組織「ガーデン」に所属する母(ヨル)と超能力者の娘(アーニャ)が織りなす「かりそめの家族」のアニメーションを見ました。その中で、母のセリフがとても印象的でした。

「私はいったい何のために戦うのか…」自問自答する中で、黄昏が語る姿を想像します。

「誰かのために、過酷な仕事に耐え続けることは誇るべきことです。」

そして、「私は戦うことをやめない。」と奮闘します。

私自身もこの数年、自分が存在する意味は何なのか、自分のすることにどんな意味があるのか、考えています。置かれている状況はまったく違うけれど、これらのセリフに心を打たれました。一年かけて、私なりの答えを見つけていきたいと思っています。

中学校2年生の時期は、自分自身がよくわからない、自分の進むべき方向が見えないなど、悩み多き時期であるといわれます。もし、そんな人がいたら、一緒に考えていけたらいいな、と思っています。

この一年間で、みなさんがお互いに寄り添い、個性を大切にし合えるような関係づくりができれば最高です。

元日に起きた能登地方の大地震で多くの被害が出ています。私の友人は富山県の中学校で校長をしています。彼の学校には200名の人々が避難してきたそうです。私たちにできることは多くはありませんが、被害を受けた方たちに一日でも早く心の平穏が訪れることを願わずにはいません。



“もっと自慢できる” のその先へ “もっとも自慢できる” 学年へ

3学年主任 元島 賢

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年末に、3年前の教え子たちが、はるばる港北区より高等学校卒業の“進路”の報告のために本宿中学校を訪ねてきてくれました。高等学校での生活もちろん楽しく、充実していたようでしたが、中学校3年間の思い出は計り知れないものであったと、思い出話に花を咲かせました。3年生のみなさん、残りわずかとなった中学校生活を、仲間との時間を大切に過ごしてください。1、2年生のみなさん、中学校3年間はあっという間です。よりよい学年・学校を築き上げていきましょう。

中学生はとても多感な時期で、悩みも多く、精神的に不安定になることが多くあるかもしれません。甲本ヒロトというミュージシャンが、こんなことを言っています。

「学校の教室は、電車の車両と一緒に。たまたま同じ年に生まれた近所の人、同じ部屋(車両)に集められただけじゃん。『はい、この車両全員仲よく友達ね』って言われても、『いや、偶然今一緒に乗ってるだけなんですけど』って。自分が降りる駅まで平和に乗ってられなきゃダメじゃない？その訓練じゃないか、学校は。友だちも、仲よしでもない好きでもない人とも、平穏に暮らす練習をするのが学校じゃないか。」(省略)

“明るい未来行”の本宿中学校という電車から、それぞれが自分の意志で決めた駅で下車をしていきます。新しい街で、新しい出会いをする。楽しいことも苦しいこともあるでしょう。その繰り返しの中で、みなさんがさらに成長していくことをいつも願っています。そんな大切な準備期間の中で、みなさんにとって乗り心地のよい電車となり、一緒にすてきな駅を見つけていきましょう！

3年生のみなさん、もっとも自慢できる学年だった！と、胸を張って卒業証書授与式を迎えられるようにしましょう！！本年もどうぞよろしくお願いいたします。

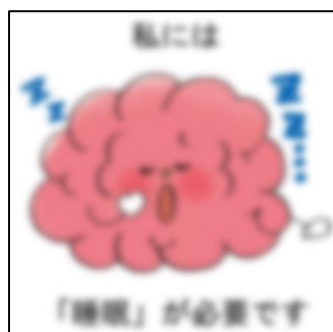
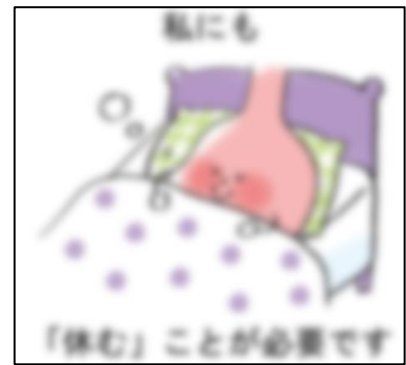


【保健指導部からのメッセージ】

始業式後に「私には〇〇が必要です！」と題した講話がありました。心の休養も大切ですが、体の休養も同じくらい大切という内容でした。長いお付き合いになるのでしっかり休養を与えるようにしましょう！（当日使用したスライドです）



私には〇〇が
必要です！



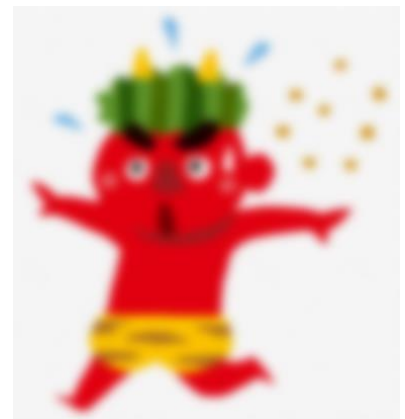
【2月マナビバ開催日】実施予定 5 回

2・7・13 日 14:45～ / 8・9 日 15:45～

※当初の予定が変更されています。なお、3月は1・8日の2回の予定です。

【2月の主な予定】

- 2 日 3 年学年末テスト
- 6 日 専門委員会
- 8 日 評議会
- 13 日 3 年特別時間割スタート
- 14 日 1・2 学年末テスト(～15 日)
- 20 日 1 年職業講話
- 26 日 3 年卒業遠足



《お願い》

8 時30分～40分の時間帯は、職員が打合せを行っていますので、

欠席等のご連絡は8:15から8:25までをお願いします